

「課題研究」を中心に据えた授業力・学力の向上

能美市立辰口中学校

昨年度は「アクティブ・モラル・ラーニング」と「アクティブ・ラーニング」の両輪で研究を進め、徳と教科の関連付けを行うことで、全教科共通の授業スタイルを見出した。今年度は、教科等で学んだことを教科横断的に発揮する場として、総合的な学習の時間で「課題研究」を設定した。これからの時代に求められる資質・能力の育成につながる大きな可能性を秘めた実践を展開することができた。

総合的な学習の時間（課題研究）

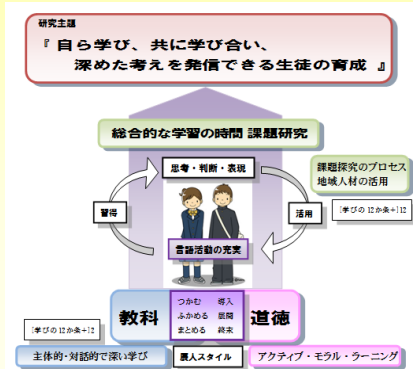
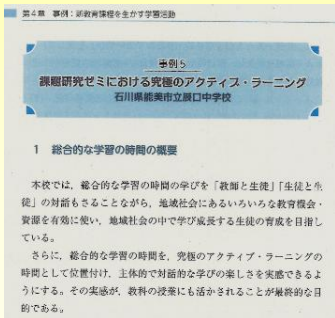
授業力・学力の向上

課題研究実践に向けて

- ・生徒も教師も共に学ぶ姿勢
- ・地域人材の効果的活用「本物に触れる」
- ・書く、発表するスキル（国語科での学び）
- ・発達段階に応じた学習内容、指導方法

主体的、対話的で深い学びの実現に向けて

- ・求められる資質、能力の共通理解
- ・授業で勝負する教師「わかる・できる授業」
- ・言語活動の充実 → 脳内フル回転
- ・全員参加型の校内研修会



Plan
共通理解

1年生 『ふる里』

(辰口地区、新聞形式)

知識・技能

2年生 『能美市の自然・文化』

(能美市、レポート形式)

思考・判断

3年生 『地域や地方を創生』

(石川県、論文形式)

提言・発信



多様な考えに触れる



外部講師から学ぶ



校外学習で体験する



発表会で交流する

授業スタイルチェックシート（目録）

項目	内容	達成状況
1	授業スタイルの明確化	
2	授業スタイルの実践	
3	授業スタイルの評価	
4	授業スタイルの改善	
5	授業スタイルの共有	
6	授業スタイルの継承	
7	授業スタイルの発展	
8	授業スタイルの定着	
9	授業スタイルの活用	
10	授業スタイルの普及	

授業スタイルチェックシート

- ・授業スタイル（授業者の手立て）
- ・学びの視点（目指す生徒像）

校内研修会（学力調査分析・考察）



国語 B から求められる学力観を抽出

- ① 数ある資料から必要なものを判断し、効果的に活用する力
- ② 話し手、聞き手両方の視点でとらえ、分かりやすく伝える力

Do
共通実践



若手教員早期育成プログラム

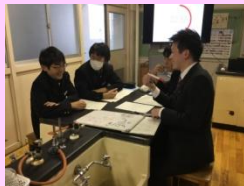
計画訪問 B (総合 11月)



1年 民話ゼミ



2年 民話ゼミ



3年 科学ゼミ

Check
発信・検証

計画訪問 A (教科 6月)



考えをゆさぶる発問



ホワイトボードの活用

- 活発な意見交換、議論
- ゲストティーチャーの有効活用
- 学び合いの質



多様な切り口で思考させる

- 学び合う姿が増加
- 生徒同士の考えをつなぐ
- OUTPUT のさらなる充実

校内研修会 (11月)

國學院大學人間開発学部初等教育科

田村 学 教授

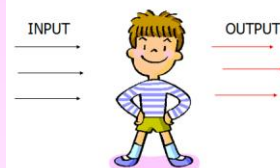


研究授業



講演会

<授業改善のポイント>



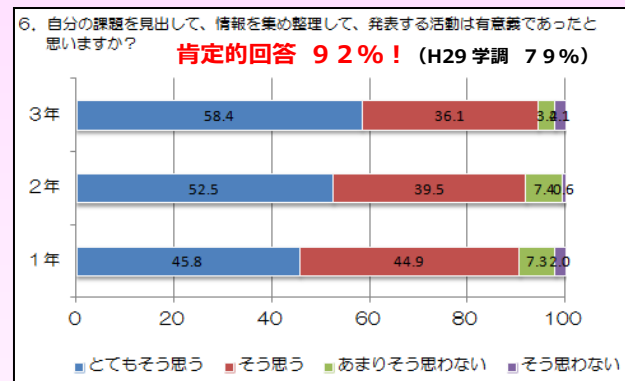
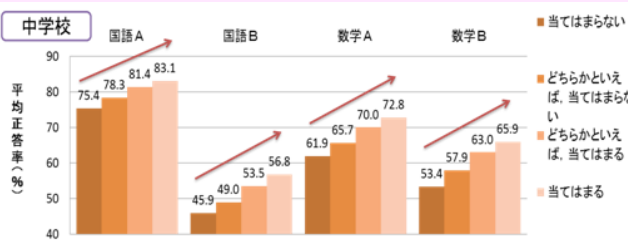
☆OUTPUT してこそ INPUT

→ 教師の発話量 << 生徒の活動

☆長期記憶、活用型知識

☆OUTPUT 量と定着度の相関関係

- ☆対話的な学びの質の向上 (判断 = 価値に基づく選択)
- ☆授業整理会 → 改善策の議論・提案 (参観者の技量)



『総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を整理して、調べたことを発表する学習活動に取り組んでいる。』という質問項目と学力調査の正答率との間には相関関係がある！

課題研究 全校発表会 (1月)



質の高い発表



お世話になった外部講師



シェアリングタイム



質問タイム

① カリキュラムマネジメント (教科との関連付けを強化)

- ・辰人ロードマップの作成
- ・授業力、学力向上の基盤としての位置付け

② 対話の質のさらなる向上を目指して

- ・教師のファシリテート力の向上
- ・思考ツールなどの効果的活用

Action
改善

辰人ロードマップ
課題研究を中心として、あらゆる教育活動を関連付け